

令和3年度普及指導活動外部評価会 結果

福岡県農林水産部経営技術支援課

令和4年2月21日に8名の外部評価者による外部評価を実施し、協同農業普及事業及び普及活動の実施状況について、評価・意見・提案を受けた。

1. 協同農業普及事業について

経営技術支援課より、本県の普及指導センターの設置状況、普及指導員の配置状況、普及指導員の資質向上への取組、令和3年度の全普及指導センターの普及活動課題設定状況について説明を行った。

項目	評価・意見・提案
普及指導センターの設置	<ul style="list-style-type: none">各地で息の長い取り組みを続けており、日本の農業を支えるインフラになっている。あまり知られていない現状があるため、もう少しアピールが大切だと思います。
普及指導員・専門技術指導員 (革新支援専門員)の配置	<ul style="list-style-type: none">女性の割合が、特に若い世代で上昇しているとのことで、引き続き、女性が働きやすい職場作りに取り組んでほしい。
普及指導員の 資質向上の取組	<ul style="list-style-type: none">民間企業への派遣だけではなく、福祉事務所等の幅広い機関への見学、研修があると良い。
普及活動課題	<ul style="list-style-type: none">担い手の高齢化により、生産力が減少しているという実情について、消費者の意識が薄いと感じる。(4)、(5)の課題を増やし、農業の大切さや魅力をアピールしてもらいたい。どうしても年度単位で成果を求めてしまうが、抱えている課題はそう簡単にクリアできるものではないので、じっくり息長く取り組み、農業を支えてください。

2. 普及指導センターの取組について

令和3年度は、北九州、南筑後、京築の3普及指導センターを外部評価対象とした。

普及指導センターから、普及指導計画の課題設定の考え方、課題構成や主要な課題の取組と成果について概要を説明し、代表課題として、令和3年度が最終年度となるプロジェクト課題(複数部門担当で取組む課題)について詳細な説明を行った。

(1) 北九州普及指導センター

○代表課題：北九州地域の新規就農者支援体制整備による担い手の確保・育成・定着 R1～R3

(1) 課題・目標

- ・地域農業の担い手が減少している中で、農外からの新規参入者は約半数を占める。
- ・新規参入者は、栽培技術や出荷調製作業、経営管理等の習得に加え、地域の農業者との信頼関係づくりが必要である。
- ・このため、北九州地域担い手・産地育成総合支援協議会を中心に、新規参入者の研修受入体制を整備するとともに、市町毎の新規就農者のサポート体制を確立する。
- ・これらを通じて、新規就農者の確保・育成を図るとともに、就農計画の目標を達成することで、経営確立と定着を目指す。

(2) 普及活動の内容

1 担い手育成推進体制の整備

- ・北九州地域担い手・産地育成支援協議会(会長:センター長 2市4町、JA等関係機関で構成)を開催し、農業次世代人材投資事業(準備型)に対応できる研修受入機関の設置に向けた合意形成及び体制整備について検討。
- ・全市町等で担い手支援に係る会議の定例化及びサポート体制の強化にむけて支援。
- ・新規参入者の栽培技術習得研修を引受け、併せて地域との交流を支援する農業者をトレーナーとする支援制度の整備・拡充にむけ、担い手支援会議で提案・検討。

2 新規就農・就業者の確保・育成

<確保>

- ・関係機関と連携した就農相談対応、就農計画の策定支援

<育成>

- ・就農計画策定経営体は、ほぼ新規参入者のため重点指導対象とし、センター職員による営農基礎講座等(対象:就農5年未満)の開催と個別現地巡回指導を濃密に実施。また、関係機関と連携し定期的に策定計画に沿った個別面談を実施。

(3) 活動の成果

- ・北九州地域全域を対象とする研修生の受け入れ機関(農業経営者教育機関認定)として、北九州地域農業次世代人材育成協議会(事務局:北九州市)が設立できた。
- ・担い手支援に係る会議がなかった芦屋町、水巻町でも定例的に会議ができるようになり、全市町等で実施するようになり、サポート体制が強化された。
- ・新規参入希望者の栽培技術習得研修を受け入れる農家として北九州市、岡垣町を中心にトレーナーが確保できた。
- ・新たに設立した協議会を通じた研修(研修施設での農業技術実践研修及びトレーナーによる個別技術習得研修)を実施し、新規就農につながった。
- ・就農相談から就農までワンストップ窓口受け入れ体制を確立したことで、新規就農者等が確保できた。
- ・市町・JA等関係機関が連携して実施する個別面談やセンター職員等による営農基礎講座・個別現地巡回指導により、就農計画目標の達成につながった。

○外部評価者からの評価・意見・提案

項目	評価・意見・提案
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通かつ最大のテーマである「担い手の確保」がテーマ設定されており、適切であると思います。 ・ 新しく農業を始めたい方を、もっと受け入れることができれば良いと思った。
活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手育成支援体制の連携が取れていると感じます。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規就農者の数は少ないものの、手厚いトレーニングにより確実な確保につながった点がよかった。 ・ 就農相談から研修、就農計画、就農、個別支援が一つの流れになっている。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標以上を達成されており、素晴らしいと思います。 ・ より広い範囲へのPRやいわゆる「第三者継承」など残された課題をクリアしてほしい。

○総合コメント

始まったばかりなのだろうが、改善を続けていってもらいたい。何事も始めることには勇気がいると思うので、迷っている方の背中を押せるような所を見つけることが大切。

研修は人数が少ないほど効果が高いと思う。手厚い支援を受けた就農者の定着を期待する。

新規就農しても続かず、廃業してしまう者も一定程度生じてくると思われるので、今後は入口部分の“確保”だけでなく、就農後の“維持”もできるように注力してほしい。

(2)南筑後普及指導センター

○代表課題：次世代を担う経営体の育成によるカンキツ産地の維持 R1～R3

(1)課題・目標

JAみなみ筑後柑橘部会は、生産者数や栽培面積の減少により、産地が縮小傾向にあり「山川ミカン」ブランド力の低下が懸念されている。

また、優良品種として導入した「北原早生」や「早味かん」も、生産量の不安定さや日焼け等の品質低下による売上げの伸び悩みといった課題があった。産地を維持するためには、新規就農者や雇用等の新たな担い手を確保して産地の減少傾向にストップをかけ、併せて優良品種の栽培技術確立による個別経営体の所得向上を図る必要がある。

このために、今後の産地を担う規模拡大意向をもつ生産者や若手生産者等を重点支援対象と位置づけ、収穫期などに臨時で雇用している高齢化してきた親戚縁者などに代わる新たな短期雇用の確保や優良品種の技術改善により売上げを増加させるモデルを育成する。

併せて、新規就農者を確保するために関係機関と連携して就農希望者への相談会の実施、また定着を促すために、技術の習得と併せて規模拡大を促すことで経営の安定を図る。

(2)活動内容

①重点支援経営体の経営改善(モデルとなる経営体の育成)

- ・重点支援対象経営体の設定および経営改善目標の策定
- ・個別カウンセリングやコンサル、園地巡回指導による経営改善支援
- 担い手支援団体を活用した雇用の導入支援
- 「早味かん」の技術改善:施肥体系改善、日焼け防止試験の実施
- 「北原早生」の技術改善:土づくり、枝別摘果試験の実施
- 新規就農者(新規参入者)の面積拡大支援

- ・基盤整備の推進(推進会議への参画)

②新たな担い手の確保及び育成

- ・新たな担い手確保のための推進検討(新規参入者、定年就農他)
- ・就農相談会の実施
- ・新規就農者が収量増を図るための技術支援(個別巡回指導、基礎技術研修会)

(3)活動の成果

①重点支援経営体の経営改善(モデルとなる経営体の育成)

重点支援経営体の経営改善	基準(H30)	目標	実績(R3)
経営改善目標の設定	—	11	12
労働力確保による売上げ増	—	6	4
「早味かん」の収量品質向上による売上げ増	—	2	2
「北原早生」の連年安定生産による売上げ増	—	2	2
新規就農者の面積拡大による経営安定	—	2	2

②新たな担い手の確保及び育成

新たな担い手の確保及び育成	基準(H30)	目標	実績(R3)
新規就農者の確保	10	15	17
収量向上達成者	—	5	6

○外部評価者からの評価・意見・提案

項目	評価・意見・提案
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・所得向上をキーワードとした新規就農者の確保、労働者の確保、単収向上対策と、論理的な課題設定となっており、素晴らしいと思います。 ・新規就農者を続けることが大切。そのためには、労働力と収入が大切なので、底上げも大切。
活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ・推進体制、及び連携(特にJA南筑後部会や青年部との協働)が素晴らしいと評価します。 ・生産者に対する訴求ポイントがわかりやすい。加えて成果も所得向上に直結するなど、素晴らしい活動だと思う。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者へのヒアリングを行ったり、雇用の問題点を支援団体に提供するなど、生身の声を聞いて動いている所がよい。 ・収穫労働力雇用の費用対効果分析、樹形改造、樹勢強化、日焼け防止など、科学的かつ実践的なデータ情報に基づく普及指導が大変秀逸と評価します。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に産地の課題を洗い出し、それぞれに解決策を示して実行する手法は、地域への活用も可能で効果的と感じた。

○総合コメント

カンキツが順調で資金があるうちに将来に向けた投資が必要。雇用について検討を進めているが、積極的な投資による検討も進めてほしい。

重点支援経営体など、それぞれのニーズに合った支援をきめ細やかにやっている。

アンケート結果などを基に、産地への課題を洗い出し、それぞれの解決策ごとに生産者を割り当て、実践→成果に繋がったことは、伴走型の支援活動としてわかりやすく、他の地域でも同様の取り組みを転用できるのではないかと感じた。

(3)京築普及指導センター

○代表課題：新規園芸農家の確保と労力支援による産地維持拡大 R1～R3

(1)課題・目標

第二種兼業農家率が県平均と比較して高いことから第二種兼業農家の退職者を対象として園芸品目の栽培推進を行い、園芸品目の新規生産者を増やしていく。

また、園芸品目栽培農家に対して、H30年に稼働したパッケージセンター等の出荷調製作業労力支援、果樹サポート部や民間派遣会社の栽培作業労力支援の推進を行い、作付面積の維持・拡大を図る。更に雇用労働力の確保のために、地域で個々に行われている労力支援の連携や農福連携等を検討する。

これらの取り組みにより、管内の園芸産地の維持拡大を図る。

(2)活動内容

① 新規園芸農家の確保

- (1)みやこ町、行橋市、吉富町、築上町での園芸作物栽培希望者説明会、個別面談開催支援
- (2)他市町等での園芸作物栽培希望者説明会開催推進
- (3)JA農業塾支援(講座受講者の栽培技術習得)による新規園芸農家育成

② 園芸産地の維持拡大

- (1)ケイトウ、甘うい、夏秋ナス栽培推進
- (2)ケイトウ、甘うい、夏秋ナス新規農家支援
- (3)甘うい+ケイトウ、甘うい+夏秋ナス等の複合モデル推進
- (4)労力支援(PC、VFセンター、果樹サポート部、民間派遣会社等)の活用推進
- (5)労力支援(PC、VFセンター、果樹サポート部、民間派遣会社等)の利用一覧資料作成
- (6)関係機関での各種労力支援利用一覧資料の活用推進

(3)活動の成果

①新規園芸農家の確保

- ・新規園芸農家数は100戸となり、目標を大きく上回った。
- ・園芸作物栽培希望者説明会は5市町で取り組み目標達成した。

②園芸産地の維持拡大

・ケイトウ、夏秋ナスは作付面積が増加して県下の面積となり目標達成できた。甘ういは目標面積達成には至らなかったものの、作付面積が計画前の倍以上に増加した。

- ・労力支援活用農家数は目標達成には至らなかったものの、大幅に増加した。
- ・農家からの相談から紹介までのフローを整理した一覧を作成し、普及指導センターや市町、JA等の窓口で労力支援が必要な農家に示せるシステムを構築した。

○外部評価者からの評価・意見・提案

項目	評価・意見・提案
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・早からの兼業深化地帯という(従来視点からすると)「弱味」を逆手にとって「強味」に変えるという素晴らしい対象選定と評価します。 ・支援対象者を退職者等に絞ったことで、対象者に合わせた手厚い取り組みができていると思うが、作付の継続年数を考えると、若い世代にも幅広く勧誘していくことが必要と思われる。
活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体、農協、セルフセンター、生産部会・同果樹サポート部、先輩農家等との協働体制も大変効果的と評価します。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・時期などを考えて収入アップを目標にするのはいいと思いました。労働力を分散していく方法としていろいろな団体と連携していることはいいと思いました。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある方が多いのだと思いますので、継続してほしい。 ・作付面積の拡大、戸数増など産地形成への成果に繋がったことは評価できる。

○その他の意見

新規に始める方が多い(他の作物を作っている方)若い人も、もっと興味を持ち、年齢層が幅広いということで若い人が始めるきっかけになればいいと考えます。

対象者と品目をしっかり見定めたことで、関係機関を巻き込み、集中して取り組みを行っており、成果につながっている。技術的なことに加え、新規に始めた方の主観から見えてくるニーズにきめ細かく対応することで、継続の支援に繋がってほしい。

退職したら京築で農業を。それが文化になり、定着するとお素晴らしい。デジタルも使ってPRの幅を広げてください。